

平成 12 年 4 月 24 日
気 象 庁

有珠山の火山活動について

1. 活動の状況

- ・ 3 月 31 日 13 時 10 分頃有珠山西側（西山）山麓で噴火
- ・ 4 月 1 日有珠山北西側の金比羅山西側山麓で噴火
- ・ 4 月 3 日西山山麓の火口付近で多数の断層群を確認、以降これらの断層群が発達
- ・ ここ数日西山山麓、金比羅山西側とも断続的に小規模噴火を繰り返す
- ・ 断層・割れ目の発達は一時ほど大きくないが、一部で地殻変動が進行

2. 情報の発表状況

- ・ 地震活動等の活発化に伴い、3 月 29 日 11 時 10 分に「数日以内に噴火の可能性が高い」旨の緊急火山情報を発表
- ・ その後状況に応じ、適宜、情報を発表
- ・ これまでの発表総計は、緊急火山情報 5 回、臨時火山情報 20 回、火山観測情報 178 回発表（4 月 24 日 12 時現在）

3. 観測・監視体制等

- ・ 火山噴火予知連絡会有珠山部会の事務局機能を強化するため現地に事務局長以下 10 名を派遣
- ・ 地震計、震度計及び遠望カメラの増設及び空振計の新設

- ・大学等との観測データの交換、共同調査等
- ・火山機動観測班の現地派遣

4. 有珠山の火山活動に関する現状認識及び今後の見通し

4月12日現地で開催した火山噴火予知連絡会において検討し、統一見解を発表。以下、その概要。

(1) 今後の活動の見通し

- ・当面は現状と同様の水蒸気爆発ないしは弱いマグマ水蒸気爆発が継続
- ・今後、状況の変化によっては、北西山麓でやや大きな爆発が発生、火砕サージを伴う可能性有り
- ・噴煙等の変化、地殻変動等を総合的に解析し、監視することにより、これらの活動の到来を事前にとらえることは可能
- ・山頂部の大規模噴火に移行する兆候は現在のところなし

(2) 今後の課題

- ・当面、北西山麓での噴火活動に対する警戒が重要
- ・活動が新たな状態に移行する前の地震、地殻変動等の変化を確実に捉えるため、観測体制の整備が重要

5. 統一見解発表後の有珠山の状況

- ・時々火山灰混じりの噴煙が発生
- ・西山山麓、金比羅山山麓の同じ火口での噴出が継続
- ・部分的に1日あたり約1メートルの隆起が継続

今後、これらのさらなる変化、変動の加速等が見られる場合は、次のステージへの移行の可能性大となり、要警戒。

